

津田梅子記念交流館展示企画

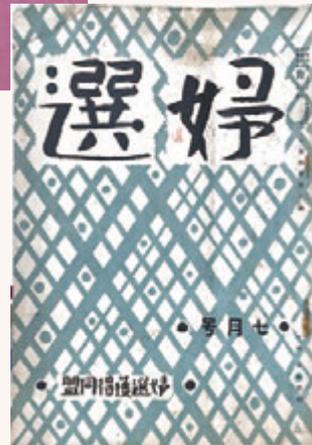
日本の女性参政権八十年記念

女子英学塾の「翻訳力」と 女性参政権運動

津田梅子記念交流館展示企画

日本の女性参政権八十年記念

入場
無料



一九四六年四月十日、戦後初めての衆議院議員総選挙で、日本の女性は初めて投票しました。今年は、それからちょうど八十年です。

社会進出運動を支えた女子英学塾（現・津田塾大学）出身者たちもいます。たとえば婦人参政権運動の中で発行された出版物には、元学長の藤田たきが寄稿したシルヴィア・パンカースト（英国女性参政権運動の中心人物）や米国の女性参政権活動家アリス・ポールの紹介記事が載っていました。日本の女性参政権運動と本学のつながりに光をあてるパネル展示を開催します。

会期 2026 **5.11** MON ▶ **7.23** THU ※閉館日：土・日曜日（ただし5月30日（土）を除く）

時間 9:00～16:30（入館は16:00まで）

※土曜日の開館日は10:00～16:30（入館は16:00まで）

会場 津田塾大学小平キャンパス | 山根記念ギャラリー

※ご来訪の際は公共交通機関をご利用ください。〒187-8577東京都小平市津田町2-1-1

西武国分寺線「鷹の台」駅より徒歩約8分/JR武蔵野線「新小平」駅より徒歩約18分
JR中央線「国分寺」駅北口より西武バス（武蔵野美術大学行）約12分「津田塾大学」下車すぐ

ギャラリートークのご案内

日時 2026年5月30日（土）
①10:15-10:45 ②13:30-14:00

登壇者 佐藤 蘭香 氏
（武蔵大学 人文学部 英語英米文化学科 教授）

会場 山根記念ギャラリー

主催：津田塾大学記念事業委員会

女子英学塾の「翻訳力」と女性参政権運動

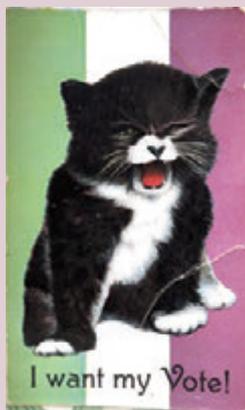
女子英学塾（現・津田塾大学）と日本の女性参政権運動には、直接的なつながりがありました。塾の創立者津田梅子（1864-1929）は、1924年に設立された女性参政権組織、婦選獲得同盟の会員でした。それだけではありません。その後学長をつとめた星野あい、粕谷よし、藤田たきも、そして河井道、蟹江操などをはじめとした女子英学塾の講師たちも婦選獲得同盟の会員だったのです。卒業生の中にも婦選獲得同盟の活動に関わった人々が存在しました。

津田梅子は、英語学習を単にスキルを身につける「実用的学問」としてだけでなく、「修養的学問」としても捉えていました。「英語から得た観念、思想によつて、自己の人格を開拓していくこと」（渋谷新平編『英語の学び方』所収、津田梅子「女子と英語」）が英語学習の目的のひとつでした。

女子英学塾の学生たちは、母塾で学ぶ英語を通して欧米の「観念」や「思想」を学んでおり、卒業後はそれらを伝えることも考えていましたが、西洋の思想を伝えていくには翻訳が不可欠です。彼女たちが日々の勉学の中で、英語の文脈を捉え、的確な日本語にする「翻訳力」をも身につけていったのは自然の流れでした。そしてそれが、1920年代、30年代の女性参政権を求める運動の中で、海外の事情を女性参政権組織の機関誌などで紹介する役目へとつながっていったのです。



創設した頃の女子英学塾麹町区一番町校舎にて（本学津田梅子資料室所蔵）



表面の左上写真
参政権を求める子猫

“I want my Vote!”と訴える子猫の図像は、女性参政権運動を象徴する印象的なビジュアルです。使用されている三色は、英国の先頭的女性参政権組織、女性社会政治同盟のシンボルカラーです。紫には尊厳 (dignity)、白は純潔 (purity)、緑は希望 (hope) を意味していました。愛らしさの中に、権利を求める強い意志が込められています。

表面の中央写真
機関紙『婦選』昭和5年7月号 ▶

機関紙『婦選』昭和5年7月号は、日本における女性参政権運動の高まりの中で発行された重要な資料です。婦人の選挙権獲得を目指し、社会参加の意義や当時の課題、運動の動向などが論じられています。誌面からは、権利拡大を求める女性たちの声と熱意が伝わり、近代日本における女性解放の歩みを知るうえで欠かせない史料です。当時の社会状況も理解できます。

